

平成 20 年度 地域保健総合推進事業

歯科・医科連携による
歯周疾患アプローチに関する研究

報 告 書

平成 21 年 3 月

分担事業者
瀬戸 昌子
(滋賀県高島保健所)

はじめに

食えることは生きることの基本です。そして食えることを支える大切な臓器は、歯を含めた口腔です。しかし、もし歯科専門職以外の医療関係者に「歯に関心がありますか」「口腔の知識がありますか」と尋ねれば、「YES」と答える人は多くはないのではないでしょうか、例えば医学部のカリキュラムでは歯科に関する内容は少なく、卒業後も歯科領域に「馴染み」のないままの医師が多いと推測されます。逆に、歯科専門職においては、一般医療、全身疾患への「馴染み」が薄いままで、いわば「医科と歯科の守備範囲が分断されすぎている」状態があるのではないかと懸念します。

実際、生身の人間では、歯を含めた口腔の健康と身体は深く関係し、全身疾患と口腔疾患の関連性を示すエビデンスも近年多数集積されています。例えば糖尿病と歯周疾患の関連、妊婦の歯周病と低体重児出産の関連、癌の治療や医療介護における、口腔ケアと感染症予防の関連などの報告は、今後、「歯科を考慮に入れた保健医療」「全身疾患を考慮に入れた歯科医療・保健」を発展させる必要があることを示唆しています。

本事業では、第一に「糖尿病と歯周病」という切り口から医科歯科連携の方法を追及したいと思います。厚生労働省の「2007年国民健康・栄養調査」によると、糖尿病が強く疑われる人や予備軍は2200万人以上と推計されますが未治療の割合も多く、予防・早期発見・治療全てが国民的な課題となっています。第二の重点としては、高齢化が進む中で必須の問題となっている「在宅医療介護」における連携のあり方を検討していきたいと考えます。

現在、地域保健医療では、医療制度改革を踏まえて、在宅医療の推進、地域連携が重要なテーマとなっていますが、歯科との連携を想定していない地域もあるのではないのでしょうか。医科と歯科の垣根を取り払って「パートナーシップ」ができれば、住民中心の保健医療を実現するために、より強力な地域システムとなるのではないかと思います。「自分の圏域でも新たなジャンルとしてやってみよう！」そう考える関係者が1人でも増えるためにこの報告書がお役に立てば幸甚です。

最後になりましたが、ご多忙の折、視察を受け入れ、貴重な資料を提供して下さいました皆様、アンケートにご協力下さいました全国保健所長の皆様に心よりお礼を申し上げます。

平成21年3月

平成20年度地域保健総合推進事業

「歯科・医科連携による歯周疾患アプローチに関する研究」

分担事業者 瀬戸 昌子（滋賀県高島保健所）

目 次

研究概要

要旨	1
組織	2
目的	2
方法	3
結果	4
考察	8
今後の計画	8

発表会資料	9
-------------	---

班会議結果	37
第1回班会議	37
第2回班会議	40
第3回班会議	42

「歯科医科連携による糖尿病と歯周病へのアプローチ」

の科学的根拠についての検討結果	45
先進地視察結果	57
観音寺市保健センター	57
独立行政法人国立病院機構長崎病院	67
アンケート調査結果	79
依頼文、調査用紙	79
集計結果	82
自由記載欄	87

研究概要

歯科・医科連携による歯周疾患アプローチに関する研究

要旨

糖尿病と歯周病の相互作用、脳卒中患者の誤嚥性肺炎防止と口腔ケアをテーマに、これまでほとんど行われていなかった医科と歯科の連携体制構築の方策とその普及方法について検討した。

地域保健に従事する医師、歯科医師、歯科衛生士により連携推進方策について、

- ① 糖尿病と歯周病の相互作用については、地域で必要な科学的根拠の整理の必要性
- ② 先進事例の紹介
- ③ 地域連携パス作成の中核となる保健所の現状把握や知見の普及のためのアンケート調査
- ④ 知見普及のための資料づくり

が提案された。

科学的根拠の整理では、

- ① 最新のシステマティック・レビューでは、糖尿病患者は非糖尿病患者に比べて重度の歯周病を有することが示され、日本歯周病学会も「糖尿病患者に対する歯周治療ガイドライン」において、糖尿病には歯周病を発症および増悪させることを示している。
- ② 最新のシステマティックレビューのメタアナリシスによる評価は十分な根拠があるというのではなく、日本歯周病学会の上記ガイドラインの記述も同様であった。しかしながら、2型糖尿病患者における歯周病治療群と非治療群のHbA1cの値の差は臨床的に意味がある数値であり、今後の研究の進展が期待される。
- ③ 近年各国より報告されている歯の喪失が栄養摂取への悪影響を招く知見と、①の仮説が支持されている点から糖尿病→歯周疾患増悪→歯の欠損→糖尿病リスクを高める食生活、という悪循環が考えられる。これは、普通の歯科医師が行っている歯科臨床の果たすべき役割が大きいことを意味するものであり、糖尿病における医科歯科連携を進めていく際の歯科側で非常に重要なポイントと考えられた。

という知見が得られた。

先進地として、以下の2カ所を視察した。

- ① 特定保健指導に歯科保健を組み入れながら、歯科・医科連携および地域保健と地域内の中核的病院の先進的な連携が行われている香川県観音寺市保健センター
- ② 脳卒中患者の誤嚥性肺炎防止のための口腔ケア等における医科歯科連携が有機的に展開されている独立行政法人国立病院機構長崎病院

アンケート調査の結果では、

- ① 糖尿病と歯周病の相互作用、脳卒中患者の誤嚥性肺炎防止と口腔ケアの関連性については、ほとんどの保健所において認識されていた。
- ② しかしながら、実際には連携がなかなか進んでいないのが現状。
- ③ 今後は連携に考慮したいとの回答は9割を超え、アンケートによる教育効果がみられた。

○組織

分担事業者	瀬戸 昌子	(滋賀県高島保健所長)
事業協力者	角野 文彦	(滋賀県健康福祉部健康推進課長)
	嶋村 清志	(滋賀県甲賀保健所長)
	毛利 好孝	(兵庫県健康局医務課長)
	大江 浩	(富山県健康増進センター所長)
	井下 英二	(滋賀県草津保健所次長)
	安藤 雄一	(国立保健医療科学院室長)
	北原 稔	(神奈川県茅ヶ崎保健所課長)
	河本 幸子	(岡山市保健所課長補佐)
	井ノ原珠紀	(兵庫県龍野健康福祉事務所課長補佐)
	武田 浩文	(滋賀県大津保健所副主幹)

○目的

医療側中心の医療から、地域住民中心とした医療へのパラダイムシフト、医療制度改革による在宅医療と地域連携の重視、全身疾患と口腔疾患との関連性のエビデンスの蓄積等により、地域保健医療における医科と歯科の連携が重要視されるようになった。

特に、糖尿病と歯周病との関連性や脳卒中患者の誤嚥性肺炎と口腔清掃との関連性については、近年多くの知見が得られてきている。

本研究では、患者主体の医療体制構築に資する歯科と医科の連携をすすめるために、全身疾患と口腔疾患との関連性に関するエビデンスを整理した上で、地域における歯科・医科の効果的な連携方策について検討、提案することを目的とした。

また、歯科と医科の連携推進において大きな役割を果たすこととなる「保健所」における認識や知識の現状をアンケート調査するとともに、あわせて連携の重要性についての啓発を行うことも目的とした。

○方法

1. 歯科・医科の効果的な連携方策の検討、提案

歯科・医科の効果的な連携方策の検討は、歯科、医科の地域保健の専門職として勤務している以下のメンバーによってグループワーク形式で行った。メンバーの選出、協力依頼にあたっては、職種、現在の業務内容等を考慮した。

瀬戸	昌子	(医師、滋賀県高島保健所長)
角野	文彦	(医師、滋賀県健康福祉部健康推進課長)
嶋村	清志	(医師、滋賀県甲賀保健所長)
毛利	好孝	(医師、兵庫県健康局医務課長)
井下	英二	(歯科医師、滋賀県草津保健所次長)
安藤	雄一	(歯科医師、国立保健医療科学院室長)
河本	幸子	(歯科医師、岡山市保健所課長補佐)
井ノ原	珠紀	(歯科衛生士、兵庫県龍野健康福祉事務所課長補佐)

1 回目の班会議およびグループワークにおいて全身疾患と口腔疾患との関連性についてのエビデンスを整理した上で、歯科と医科の連携の重要性について検討した。

以降、メールによる意見交換を経て、2 回目の班会議においては、現状把握の方法、具体的な連携方策、そしてその方策の具体的な普及方法、参考となる先進地視察先の選定について協議し、後日視察を行うこととした（香川県観音寺市保健センター、長崎県独立行政法人国立病院機構長崎病院）。

3 回目の班会議においては、地域保健総合推進事業中間報告会での協議内容と先進地視察結果報告も踏まえ、アンケート調査の検討、普及方法の検討、今年度事業の総括と来年度の取り組み計画について協議した。

2. 先進地視察

先進地視察は、糖尿病と歯周病における歯科・医科連携については、特定保健指導に歯科保健を組み入れながら、先進的な連携が行われている香川県観音寺市保健センター（平成20年10月31日視察）にて、また、脳卒中患者の誤嚥性肺炎防止等のための口腔ケアにおける歯科医科連携については、退院前カンファレンスに地域の歯科医師が参加し、在宅療養での歯科医科連携が効果的に行われている長崎県独立行政法人国立病院機構長崎病院（平成21年1月29日）にて行った。

3. アンケート調査

アンケート調査は、別添のアンケート調査票を用い、あらかじめ保健所長会の承認を受けた上で、保健所長会メーリングリストを活用して行った。調査期間は、平成21年1月29日～平成21年2月22日とした。なお、締め切り後に送付されてきたアンケートも可能な限り集計対象とした。

○結果

1. 「歯科医科連携による糖尿病と歯周病へのアプローチ」の科学的根拠について（別添資料1参照）

- (1) 概要
- (2) はじめに
- (3) 糖尿病になると歯周病が悪化するかについて
- (4) 「歯周病に罹患していると血糖コントロールが困難になる」について
- (5) 「歯周状態が悪化すると、糖尿病を助長する食生活に陥りやすい」について
- (6) まとめ

2. 先進地視察結果について

- (1) 香川県観音寺市での取り組みについて（別添資料2参照）
 - ・ 視察報告書
 - ・ 特定健診・保健指導への歯科のかかわり
ー 観音寺市国保ヘルスアップ事業での取り組み例からー
三豊総合病院 歯科保健センター 木村年秀
- (2) 長崎県独立行政法人国立病院機構長崎病院での取り組みについて（別添資料3参照）
 - ・ 視察報告書
 - ・ 歯科との連携システムについて（長崎病地域連携質資料）

3. アンケート調査結果について（別添資料4参照）

- (1) 質問項目の集計結果について
 - ・ 回答した保健所は、263 保健所で、回答率は、51.3%
 - ・ 回答率は、都道府県型 53%、市区型 46.1%
 - ・ 回答方法は、64.9%がインターネット、34.7%が FAX
 - ・ 糖尿病が歯周病のリスク因子であることは、ほぼ全ての保健所が認識している
 - ・ 歯周病と血糖コントロールの関連性は、8 割以上の保健所が認識している
 - ・ 歯周病の治療と血糖コントロールの関連性は、7 割以上の保健所が認識している
 - ・ 糖尿病の地域連携クリティカルパスが運用されているのは 6%、準備中が 30.2%
 - ・ 糖尿病の地域連携クリティカルパスに「歯科」が組み込まれているのは 14.4%、準備中が 24.7%
 - ・ 糖尿病の地域連携クリティカルパスの連携先として「歯科」を考慮したいは約半数、歯科医師会が積極的なら考慮するのは 38.3%、すでに連携済みなのが 4.3%
 - ・ 口腔ケアによって寝たきり高齢者の誤嚥性肺炎の発症率が低下することはほとんどの保健所で認識されている
 - ・ 口腔清掃と高齢者のインフルエンザの関連性については、7 割の保健所が認識し

ている

- ・脳卒中の地域連携クリティカルパスは1／3の地域で運用中、1／3の地域で準備中
- ・脳卒中の地域連携クリティカルパスに「歯科」が組み込まれているのは15.6%
- ・脳卒中地域連携クリティカルパスの連携先として、「歯科」を組み込むことを考慮するが47.2%、歯科医師会が積極的なら考慮するが38.6%、すでに連携済みが6.4%

(2) 自由記載事項の概要

＜これまで歯科と医科との連携で経験した事例＞

- ・県歯科医師会が「糖尿病と歯周病の相関関係」「歯周病は糖尿病の合併症です」ポスターを医師会協賛で作成、配付。特定健診案内に歯周病セルフチェック票を入れるよう健保連に依頼し、医師会には病診連携として糖尿病の診療情報提供書の活用を依頼した。
- ・保健所主催で開催した摂食嚥下研修会で医師と歯科さらにST、栄養士等の職種との連携が必要であることを認識した。
- ・ビスフォスフォネート薬剤に関する研修会を医科医療機関、歯科医療機関を対象に実施した。(管内歯科医師会主催、後援：当保健所)
- ・平成16年度から医科・歯科診診連携を進める目的でシンポジウム、フォーラム、推進会議を開催。医科から「糖尿病健康手帳」の有効活用が提案され、平成19年度から手帳を介した医科歯科双方向からの情報提供を図っている。平成20年度からは連携を効果的に推進するため、診療所・病院向けと歯科診療所向けの2種類のポスターを作製、配布し院内掲示を依頼した。また、薬局掲示用のポスターも作製、配布し、薬剤師会も巻き込みながら医科・歯科診診連携を進めている。
- ・管内医師会と歯科医師会が連携して「口から食べたい」講演会を継続して実施している。(今年度で12年目、12回の開催実績)※脳卒中等で脳に生涯を負って口から食べるものが難しくなった人へ口から食べるための介助やリハビリにどう取り組んで行けばいいのか探り実践するためのセミナー。
- ・保健所歯周病対策ネットワーク推進会議で「歯周病と糖尿病」に関して地域で推進するため、医師会及び2型糖尿病治療及び健康教育を実施されている病院の医師、歯科医師会・薬剤師会・栄養士会・歯科衛生士会・市町保健センターを構成員とした会議を年2回開催している。
- ・保健所難病患者在宅ケア推進委員会を開催し、地区医師会・地区歯科医師会の協力を得て、地域主治医紹介システムの構築に取り組んでいる。
- ・管内病院糖尿病教室で歯科衛生士が1単位講演している。
- ・難病患者(ALS等)の訪問時に歯科衛生士が同行し、口腔ケアに問題がある場合は、歯科医に紹介している。また、カニューレ交換時には、歯科衛生士が事前に口腔ケアと開口の保持に当たっている。
- ・早産予防のため絨毛膜羊膜炎対策事業、妊婦の歯周病健診、生活指導を実施、極低出生体重児の出生数を減らす。

<これから歯科と医科との連携を進めたい課題>

- ・ 新型インフルエンザ発生時の歯科医師会の協力期待
- ・ 糖尿病についての連携と呼吸器疾患予防について進めたい
- ・ 口腔ケアと脳卒中、肺炎等については、研修会等にて協力しており、今後具体的な連携に進めていきたいと考えている。
- ・ 連携を進めるにあたっては、歯科の方の受け皿として、かかりつけ歯科医が必ずしも歯周病を専門としているかは不明であり、難しい点です。特に、当管内では高齢者が多く、また、糖尿病患者も多く存在することから、連携が必要だと思われます。
- ・ 嚥下障害や口腔内に問題のある患者について、入院時から歯科医師や歯科衛生士等と具体的な対応を検討していきたい。
- ・ 歯周病に関連して、喫煙と歯科も、歯科受診から、歯の汚れで喫煙癖がわかり、歯周病の治療にも影響があることから、歯科医から禁煙を薦め、禁煙外来への紹介システムができればと思う。
- ・ 地域リハビリテーション・介護予防の推進、災害時の医療救護体制整備、健康づくり等。
- ・ 感染症（歯科における）対策の推進→インフルエンザ対策、施設における口腔ケアと感染症対策、エイズ、B,C型肝炎等様々な予防対策の推進が必要。
- ・ 認知症における地域在宅ネットワーク事業
- ・ ワーファリン服用患者の歯科治療
- ・ 当圏域の脳卒中部会の対策会議で「脳卒中患者の急性期・回復期の医療機関における口腔ケア・摂食嚥下障害・義歯作成の取り組み状況を知りたい」という意見が出されたことから、関係機関へアンケートを行い、現在集計中です。
- ・ 産科と歯科の連携は歯周病予防の観点から必要である。妊婦はホルモンバランスの変化から、妊娠性歯肉炎を起こしやすく、出産後も育児があり、歯科受診しにくいので、この時期にかかりつけ医をみつけ、定期的健診受診の習慣をつける機会となる。
- ・ たばこ対策及び口腔ケア全般への協働での取り組み、介護予防に係る診断とリハビリの実践

<これから歯科と医科との連携を進めるための手だて>

- ・ 保健所長が歯科に関心を持つこと
- ・ 地域保健医療推進会議の活用を検討している。
- ・ 顔と顔がみえる関係づくりのための機会づくり、連携会議づくりなど、所長の根回し、資料の提供
- ・ 現在、働き盛りの人々への歯科保健対策として職域と連携した取り組みを考え少しずつ動いております。生活習慣病、特に糖尿病との関係等を衛生教育の中に入れ歯科保健の大切さを周知し、医科と歯科の連携が必要なことをご理解いただけるよう取り組みたいと考えます。
- ・ 国への呼びかけ、歯科医師会との連携、合意の取り付け、できるだけ多くの成

功例の共有。

- 具体的な高齢者の口腔ケアの事例で、連携の必要性を医師に実感してもらうことが大切で、それに向けた取組を地道に進めることだと思う。行政側に歯科医師がいると連携がとりやすくなると思われるが、当県では無理である。
- 住民向け全身と口腔保健に関する情報の周知、口腔に関する研修開催および医師会・歯科医師会会員等への積極的な参加要請、医師・歯科医師双方の医療連携に関する検討の場の設置。
- 地域の健康課題として共通の理解はできたが、個々の領域の普及啓発、予防、ハイリスクアプローチに留まらず、それぞれが相関することによって、さらに成果（数年後の指標改善）があがることを実感できるような効果的な手法が求められていること。
- 1. 歯科医師会の協力、2. 保健所の役割が重要
- 地域連携クリティカルパスの検討を行うための会議を立ち上げたが、その会議のメンバーに歯科医師会代表を入れている。
- 糖尿病手帳に歯科の項目を必ず入れ込むようにする。糖尿病患者に医療機関が歯科検診や歯科治療のための受診を進め、受診結果を確認するよう、歯科医師会と医師会が協議する。
- 入院中に医療機関で実施するカンファレンスに、歯科関係者も出席するようなしくみにする。
- 連携のためには、保健所長の力が重要であり、保健所の役割としてその調整機能を発揮していくことが必要と思われる。
- 介護保険広域連合と協力して口腔ケア対策進めたい
- この調査受けて管内会議で強調したいと考えます！
- 地域連携クリティカルパスの導入の主体は地域の病院等であり、現在のところ保健所がその中心的リーダーとなるには限界があると思うが、医療連携の協議がある折には歯科についての理解を得て参りたい。今後、エビデンスをもって診療報酬や他の制度で位置づけられれば、歯科についても当然の連携のパートナーとして組み込みができあがるものと考える。
- 手だてはないが、医師の中にまだまだ歯科医師に「任せられない」という考えを持つ人が多いようである。これが一番の課題と考える。

○考察

これまで、医学教育、歯学教育の壁の厚さから、地域保健活動においても、歯科保健活動は一般の保健活動と一線を画される傾向があり、それが地域保健医療活動における歯科と医科の連携を阻んでいる一因でもあった。本来、地域住民中心とした保健医療活動においては、必要に応じて有機的な連携の元でそれぞれの専門職種がその役割を果たすことが重要であり、そして、今回のアンケート調査での意見でも出ていたが、その連携推進の上で大きな役割を果たすのが保健所という組織である。

今回、地域保健医療に携わる保健所等の歯科と医科との専門職種がエビデンスに基づきながら全身疾患と口腔疾患の関連性について議論し、その関連性を活かした地域保健医療活動のさまざまな具体策が提案されたことは大きな成果であった。

また、今回のアンケート調査を通じて、保健所での意識や知識の実態や歯科・歯科連携の現状が明らかになったこと、また、アンケートの啓発効果によって今後の方向性として連携推進が明確になったことは意義深いと考える。

○今後の計画

今後は、今回多くの保健所からいただいた連携事例や連携のための提案を参考に、地域においてモデル的に医科・歯科連携事業を実施し、多くの保健所において「やる気」があればできそうな事業の展開方法を提示したいと考えている。

発表会資料

平成20年度 地域保健総合推進事業発表会 抄 録 集

日時：平成21年3月3日(火)

9:00~17:00

受付
終了
受開
終

8:00~

9:00

17:00

情報交換会(懇親会) 17:30~19:30

平成21年3月4日(水)

9:30~16:30

受付
会
受開
閉

8:30~

9:30

16:30

会場：都市センターホテル

コスモスホール

東京都千代田区平河町2-4-1

TEL 03-3265-8211

主 催：財団法人 日本公衆衛生協会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番8号

TEL 03-3352-4281 FAX 03-3352-4605

後 援：全国衛生行政研究会

歯科・医科連携による歯周疾患アプローチに関する研究

分担事業者 瀬戸 昌子 (滋賀県高島保健所長)
事業協力者 角野 文彦 (滋賀県健康福祉部健康推進課長) 嶋村 清志 (滋賀県甲賀保健所長)
毛利 好孝 (兵庫県健康局医務課長) 大江 浩 (富山県健康増進センター所長)
井下 英二 (滋賀県草津保健所次長) 安藤 雄一 (国立保健医療科学院室長)
北原 稔 (神奈川県茅ヶ崎保健所課長) 河本 幸子 (岡山市保健所課長補佐)
井ノ原珠紀 (兵庫県龍野健康福祉事務所課長補佐) 武田 浩文 (滋賀県大津保健所副主幹)

要旨 糖尿病と歯周疾患の相互アプローチを主なテーマとし、保健所の医師、歯科医師、歯科衛生士、地域連携パス作成担当者を交え、先進地視察を踏まえたうえで、これまでほとんど行われていなかった医科と歯科の連携体制構築の方策について検討した。その中で、特定健診、特定保健指導における歯科との連携の重要性、糖尿病性腎症Ⅰ期患者への適切な歯周治療による糖尿病腎症発症防止の可能性、さらには、糖尿病だけでなく脳卒中患者の在宅療養での医科歯科連携体制の構築の必要性も検討された。

A. 目的

医療側中心の医療から、地域住民中心とした医療へのパラダイムシフト、医療制度改革による在宅医療と地域連携の重視、全身疾患と口腔疾患との関連性のエビデンスの蓄積等により、地域保健医療における医科と歯科の連携が重要視されるようになった。本研究では、医科、歯科の地域保健専門職を交えて、全身疾患と口腔疾患との関連性に関するエビデンスを整理した上で、地域おいての連携方策についての具体策とその普及方法について検討した。

B. 方法

研究目的の達成のため、公衆衛生に携わる医師、歯科医師、歯科衛生士、地域連携パス作成担当者、疫学の専門家等に研究協力を依頼した。

1回目の班会議において全身疾患と口腔疾患との関連性についてのエビデンスを整理した上で、医科と歯科の連携の重要性について検討した。

以降、メールによる意見交換を経て2回目の班会議において、現状把握の方法、具体的な連携方策、そしてその方策の普及方法、参考となる先進地視察先の選定について協議し、後日視察を行った。

3回目の班会議においては、地域保健総合推進事業中間報告会での協議内容も踏まえ、アンケート調査の検討、普及方法の検討、今年度事業の総括と来年度の取り組み計画について協議する予定である。

C. 結果

全身疾患と歯周疾患の関連性、特に糖尿病と歯周疾患との関連性については、エビデンスに基づく医科的、歯科学的検討の結果、図1に示すと通りの相互作用が確認された。概要としては、糖尿病は、免疫機能低下、歯肉微少血管障害、結合組織代謝異常、唾液分泌低下を招くことで歯周疾患増悪因子となり、歯周病は糖尿病の6番目の合併症であること、一方歯周病は、歯周病炎症創から侵入する歯周病原

性菌に対する生体反応の結果、生体から産生されるTNF- α をはじめとする生理活性物質によってインシュリン抵抗性が惹起され、血糖コントロールが悪化すること。さらに、歯周病による歯の喪失や動揺のため、糖尿病を助長する食生活に陥りやすいことに関するエビデンスが整理された。また、臨床的には、糖尿病性腎症Ⅰ期患者への適切な歯周治療による糖尿病腎症発症防止の可能性が示唆された。

これらのエビデンスに基づいた糖尿病対策として、地域における歯周病検診、特定健診・特定保健指導、糖尿病治療と歯周病治療の連携体制を組み入れた地域連携クリティカルパスが提案された。

そして、その連携パスの地域での実施、普及方策を検討するため、香川県観音寺市保健センターおよびその活動を支援している三豊総合病院を視察した。さらに、連携普及のためには、地域連携パス作成に深く関わることとなる保健所長への啓発が重要という意見より、保健所長に対して、現状把握と啓発を兼ねたアンケート調査と啓発用資料の配付を実施することとなった。

また、医科と歯科の連携による地域保健医療活動では、糖尿病だけでなく、脳卒中患者の在宅療養支援も重要であり、なおかつ地域連携パス作成の最優先課題でもあることから、脳卒中患者の支援のための医科と歯科との連携推進のための方策についても議論が及んだ。その議論では病院退院前カンファレンスへの歯科医師の参加が重要との観点から、全国に先駆けて退院前カンファレンスに歯科医師が参加している長崎病院への視察を行った。

D. 考察および結論

これまで、医学教育、歯学教育の壁の厚さから、地域保健活動においても、歯科保健活動は一般の保健活動と一線を画される傾向があり、それが地域保

健医療活動における医科と歯科の連携を阻んでいる一因でもあった。本来、地域住民中心とした保健医療活動においては、必要に応じて有機的な連携の元でそれぞれの専門職種がその役割を果たすことが重要であり、そして、その連携の大きな役割を果たすのが保健所という組織である。今回、地域保健医療に携わる保健所等の医科と歯科の専門職種がエビデンスに基づきながら全身疾患と口腔疾患の関連性について議論し、その関連性を活かした地域保健医療活動のさまざまな具体策が提案されたことは大きな成果であった。今回の一義的な目的は①糖尿病と歯周病の関連性について保健所長への知識の普及②その関連性を活かした糖尿病地域連携クリティカルパスの普及③パスが効果的に機能する

るための医科と歯科の連携体制の構築方法の普及。であるが、今後、このような他職種の議論をさらに継続し、新たな課題に対して議論された提案を地域活動に活かし、普及させていくことが重要と考える。

E. 今後の計画

前述した今回の3点の目的について、アンケート調査等によって現状把握、評価を行うとともに、地域でのモデル事業の実施等を通して、より具体的な事業実施方法を提案していく予定である。さらには、他職種による議論のもと、糖尿病、脳卒中だけでなく、その他の全身疾患と口腔疾患の関連性を科学的に整理した上で、地域での保健活動に活かせる具体的な提案を行うことが重要と考える。

図1 医科・歯科連携による糖尿病と歯周病へのアプローチ



参考資料

安藤ほか. 糖尿病と歯の保有状況との関連 ～平成16年国民健康・栄養調査を用いた分析～.
Journal of Epidemiol;19(1). p.202.

安藤ほか. 栄養素の摂取と口腔状態の関連 ～平成16年国民健康・栄養調査を用いた分析～.
Journal of Epidemiol;18(1). p.221.

糖尿病治療ガイド(日本糖尿病学会)

る
による
提携
科
医
科
科
科

無極

THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS

[illegible]

臨江府志卷之六

100

毛利 好孝(兵庫県健康局医務課長)
大江 浩(富山県健康増進(人)一所長)

[illegible]

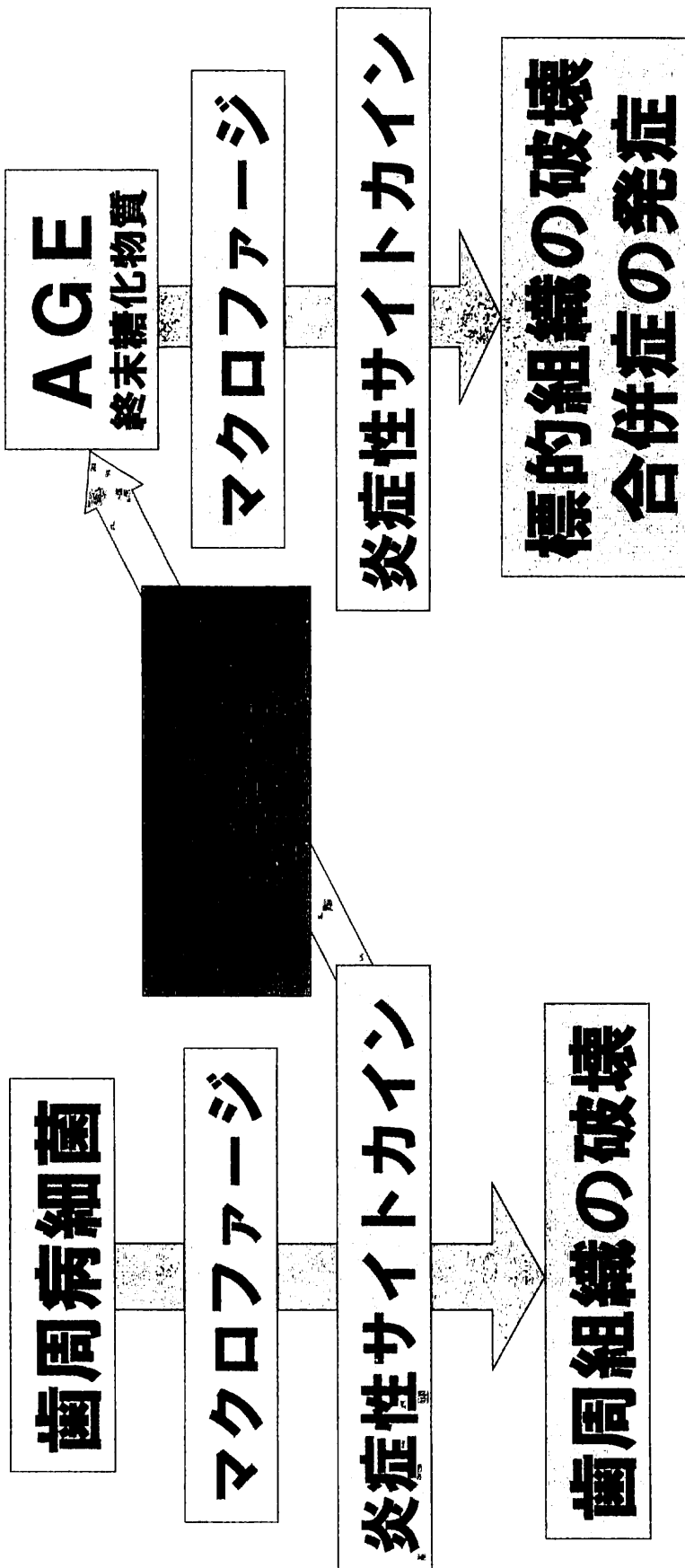
糖尿病と歯周病の相互作用

免疫機能低下、歯肉微少血管障害
結合組織代謝異常、唾液分泌低下

歯周病の発症・悪化 相互作用

歯周病

糖尿病



5 歯周病

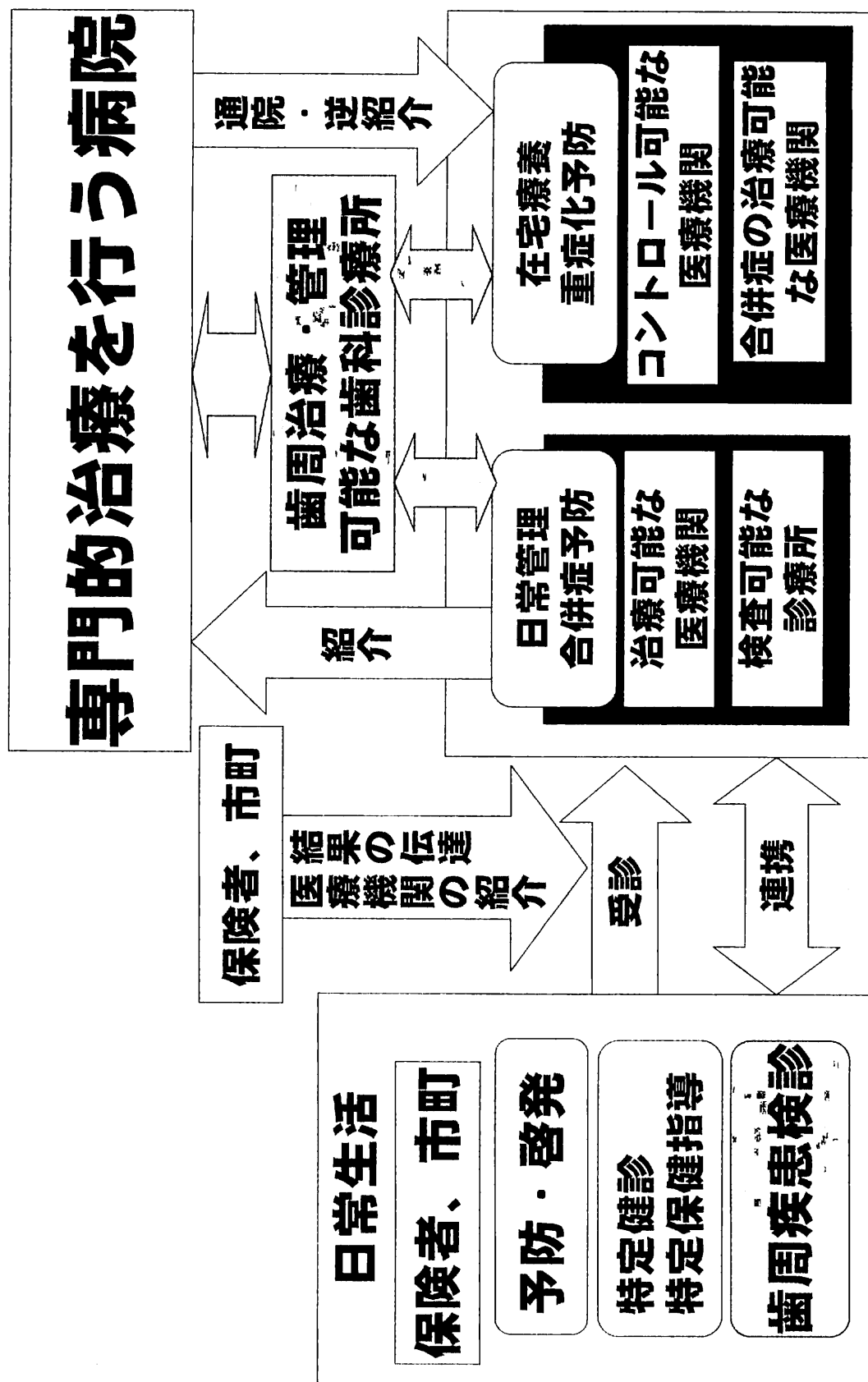
- 糖尿病患者では歯周病が重症化する。
- 主要因は、生体の感染防御としてのマクロファージ機能や好中球の細菌貪食能が、高血糖や虚血によって低下し、歯周病菌の増殖を制御できないことにあると考えられている。
- 血糖コントロールが不良だと歯周病が増悪しやすくなる。とくに高齢者、喫煙者、肥満者、免疫不良者では罹患率が高い。
- 歯周病が重症であるほど血糖コントロールは不良となる。また、局所治療にて歯周組織の慢性炎症を改善すると、インシュリン抵抗性が軽減し、血糖コントロール状態が改善することが報告されている。
- 歯周病はさらに、心筋梗塞などの動脈硬化性疾患や感染性心内膜炎、呼吸器疾患、低体重児出産などの誘因となる可能性が指摘されている。

糖尿病患者に対する 歯周治療ガイドライン



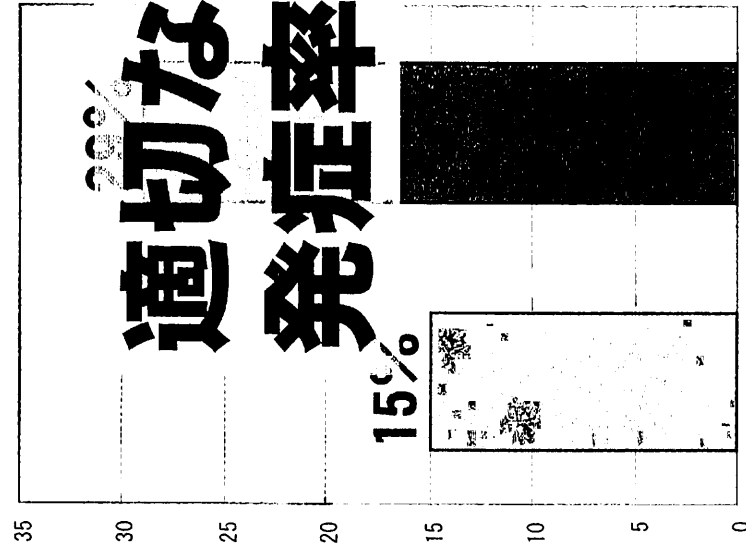
監修 日本歯科医学会
発行 特定非営利活動法人 日本歯周病学会

糖尿病での地域連携クリティカルパス

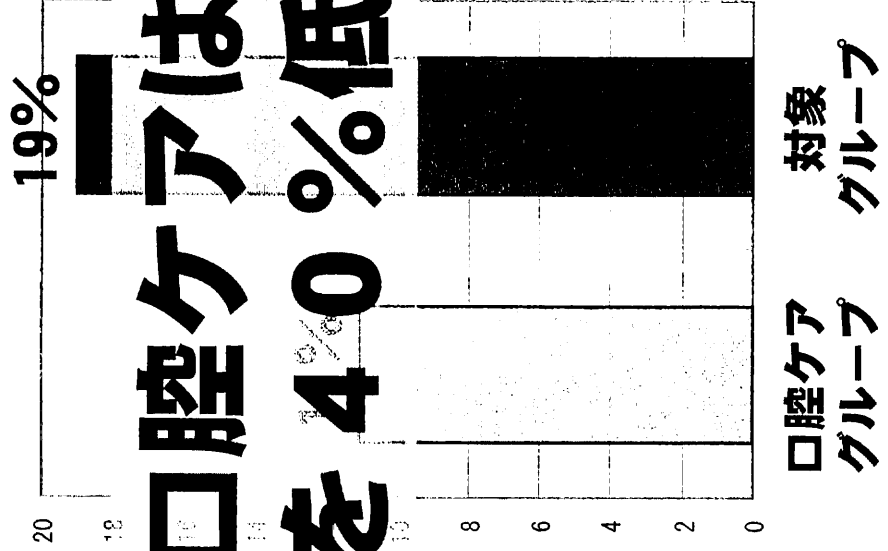


特別養護老人ホームにおける 2年間の口腔ケアの効果(※山ら)

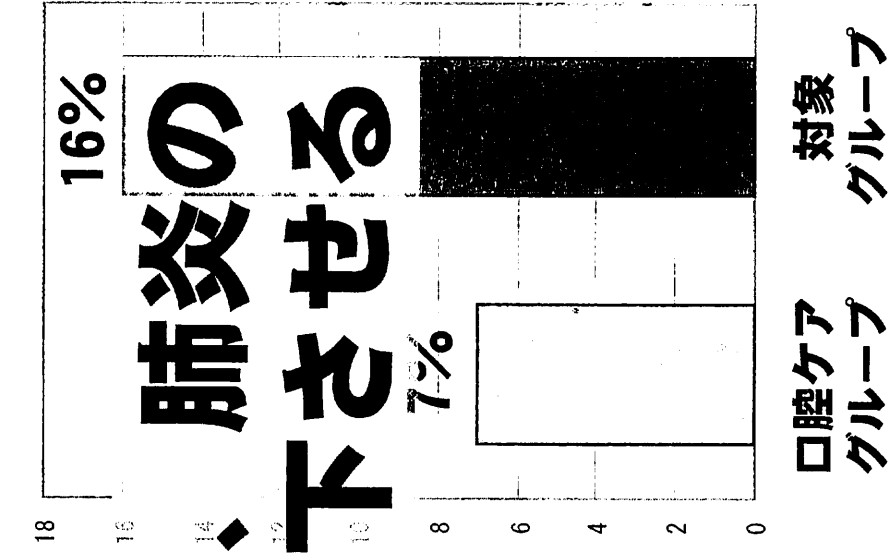
発熱発生者数



肺炎発症者数

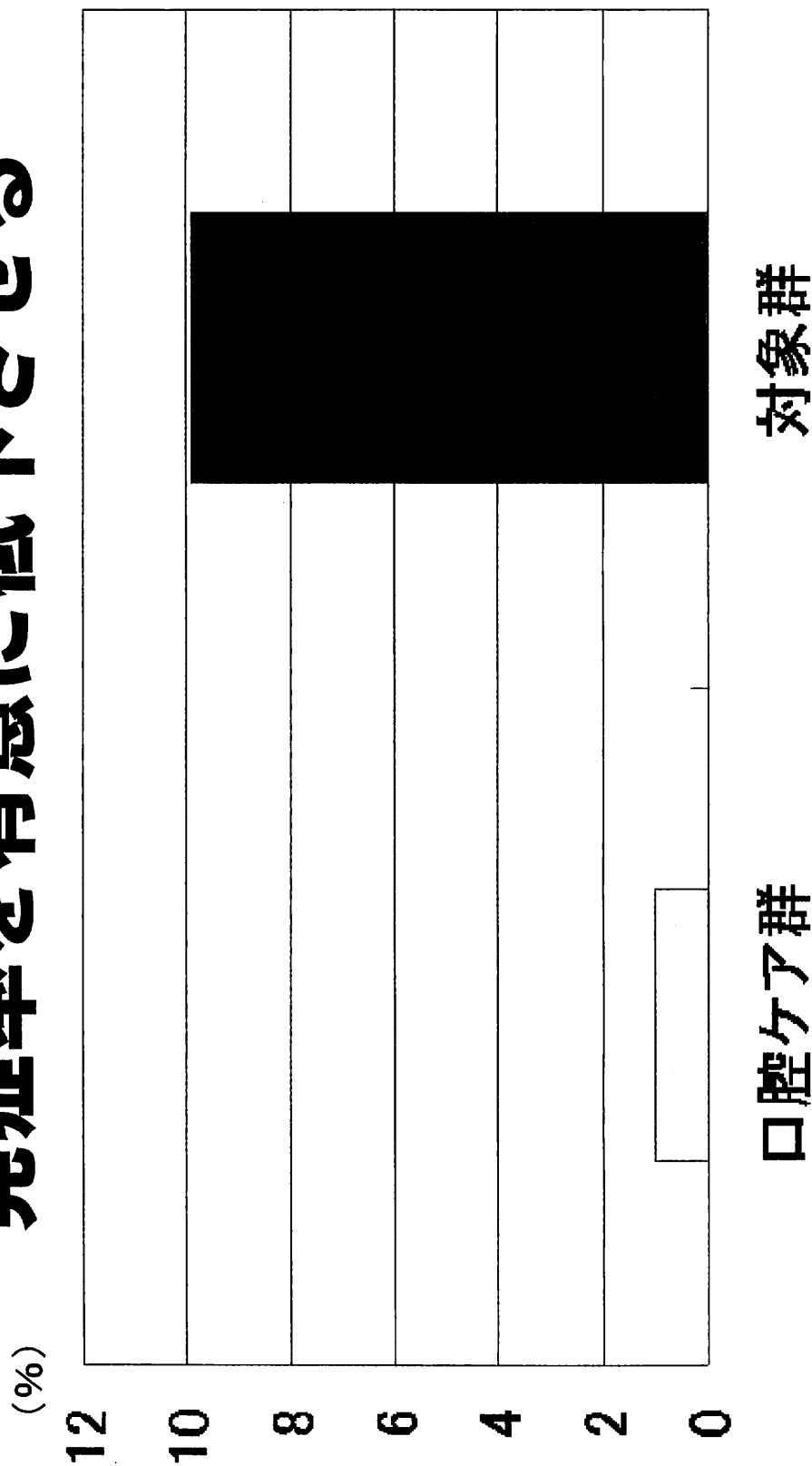


肺炎による死亡者数



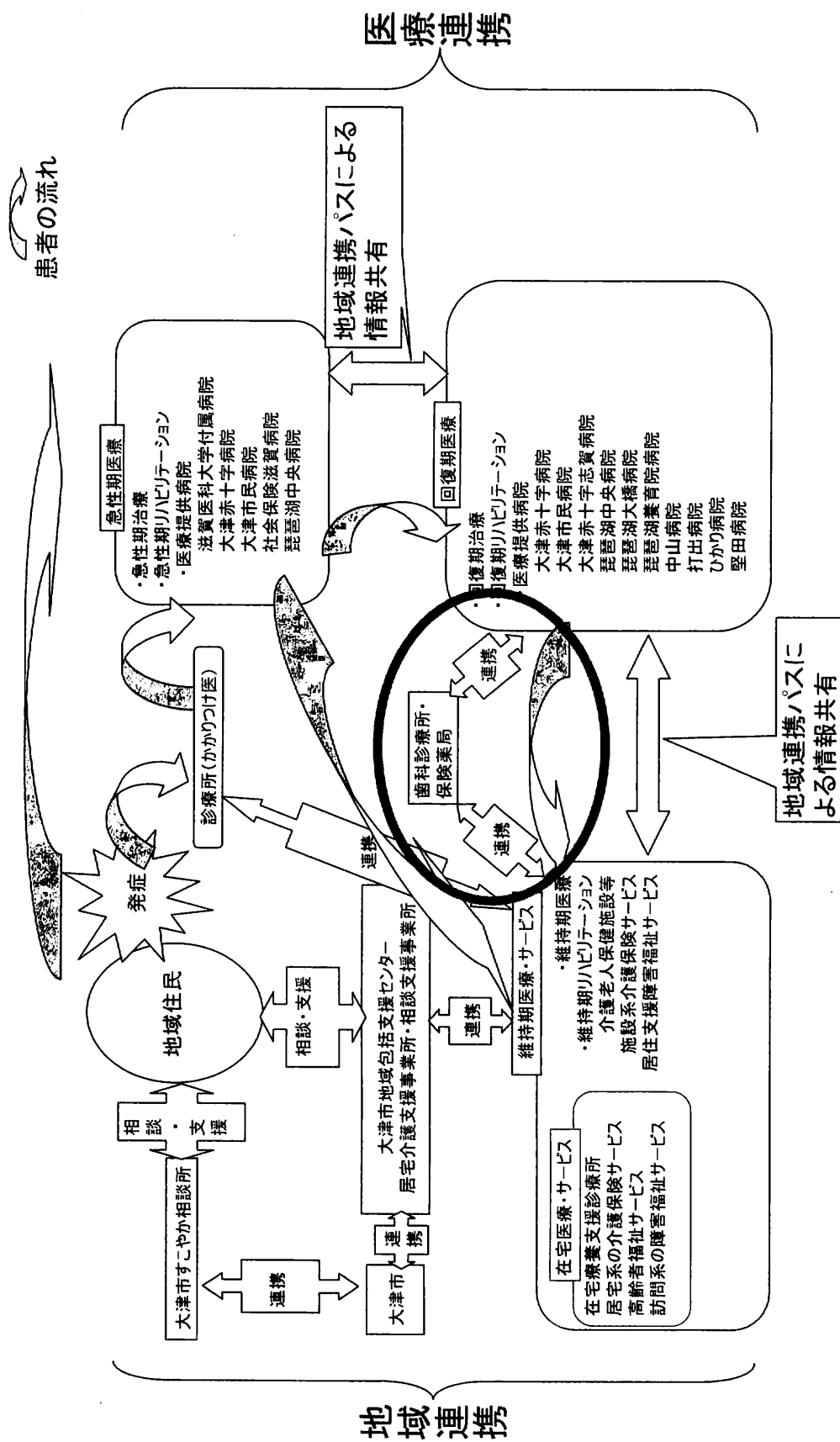
適切な口腔ケアは、肺炎の
発症率を40%低下させる

適切な口腔清掃はインフルエンザ 発症率を有意に低下させる



口腔清掃介入群49名、対照群47名 $P < 0.01$ (Fisher's exact test)

クリティカルパスの概要案



研究目的

- 患者中心の医療推進のための医科・歯科連携体制の構築
- 特に、糖尿病と歯周病治療及び、在宅患者への口腔ケアにおける医科・歯科連携体制の構築方策の検討
- 医科・歯科連携体制構築の重要な鍵となりうる保健所の意識・知識の実態調査と啓発

研究方法

- グループワークによる医科・歯科連携課題の抽出と連携方策の検討(3回)
医師：保健所長 本庁医務課長 本庁健康推進課長
歯科医師：県型保健所次長 市区型保健所課長補佐
国立保健医療科学院室長
歯科衛生士：県型保健所課長補佐
- 先進地視察(観音寺市、長崎市)
- 保健所(長)対象のメーリングリストをもちいたアンケート調査による実態把握と知識啓発
- 報告書および啓発グッズの作成・配付

特定健診受診



内科医師による講義



問診

音寺市)



血圧測定



唾液検査



全一合

ハルニ支援



リハビリ科医、整形外科医、理学療法士、看護師
管理栄養士、社会福祉士、歯科医師による
退院前カンファレンス風景（長崎病院）



歯科医師参加カンファレンスの流れ

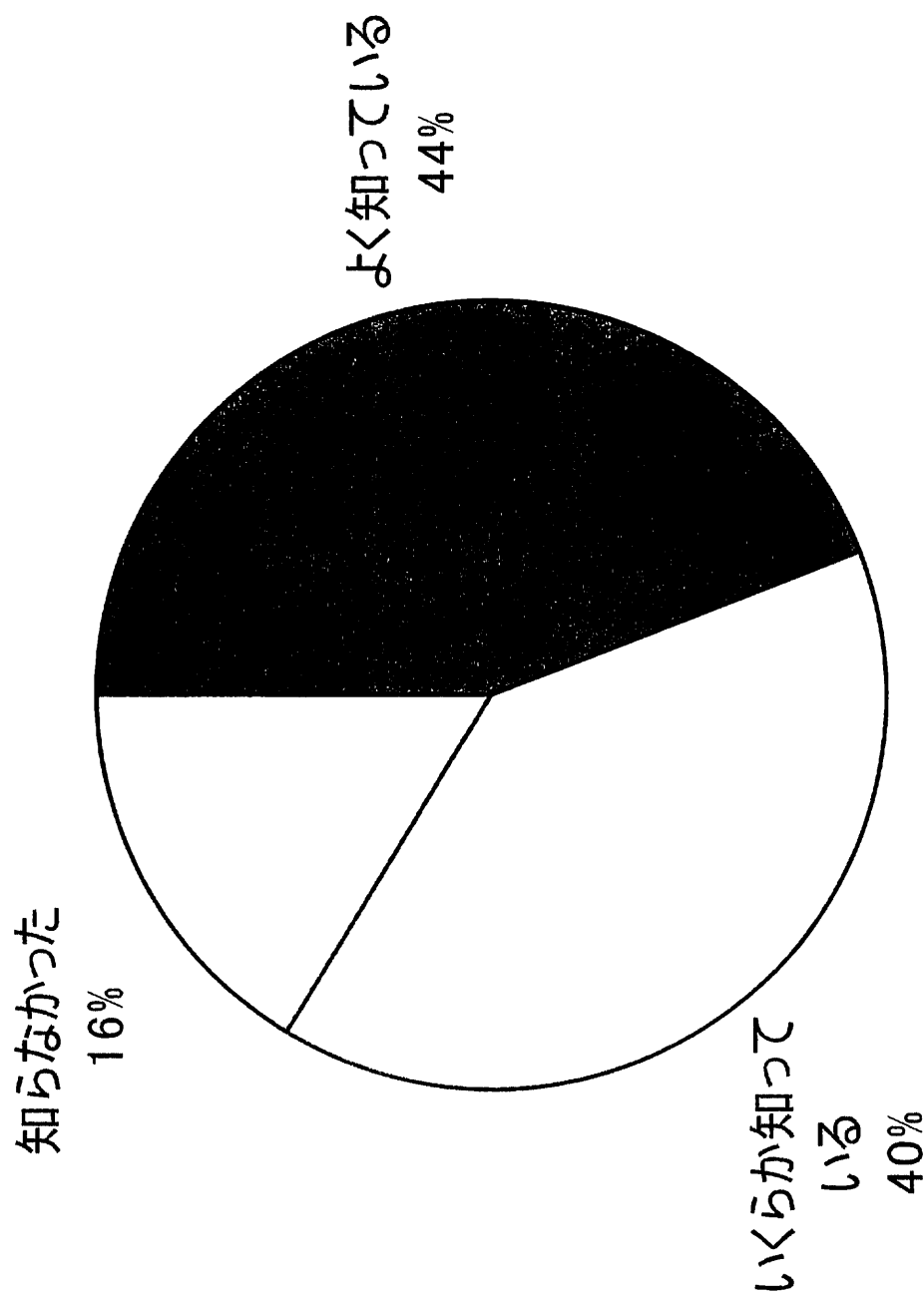
1. 患者リストアップ
2. リハビリテーション科より歯科を含めて病院各科へ情報提供要請
3. 歯科医に関しては、個別に患者依頼表提出
4. 歯科医師が病院訪問
5. 病棟のナースステーションにて患者確認
6. 病室のベットサイドにて口腔診査実施
7. 歯科コメント作成
8. メールにてリハビリテーション科へ情報提供
9. カンファレンス実施(1名15分)
10. カンファレンス後の予定確認

アンケート集計結果

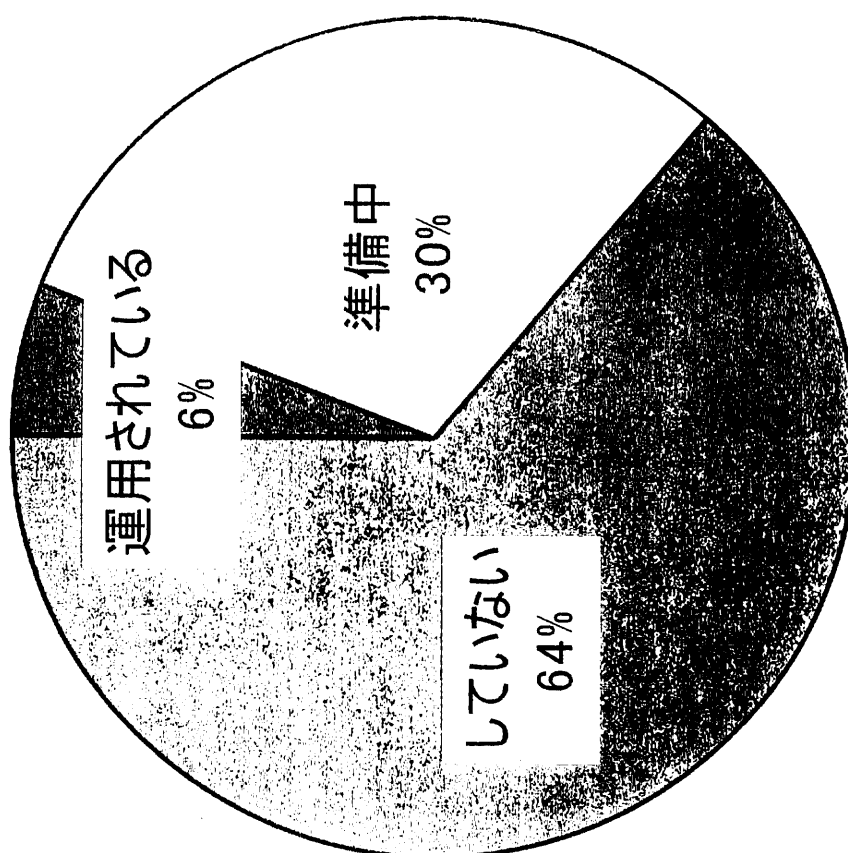
	実数	%	所長数	回答率
都道府県型	204	77.6	389	52.4
市区型	59	22.4	128	46.1
計	263	100.0	517	50.9

歯周病があると、糖尿病の血糖コントロールに悪影響を与えるとの知見が得られてきていることについて

歯周病と血糖コントロールの関連性について

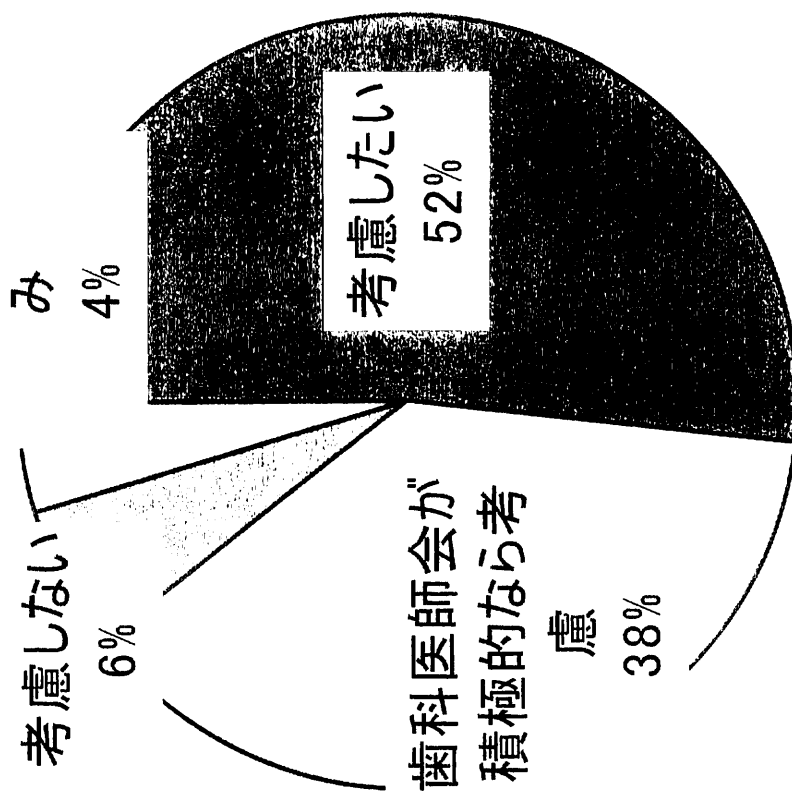


糖尿病の地域連携パスの運用状況

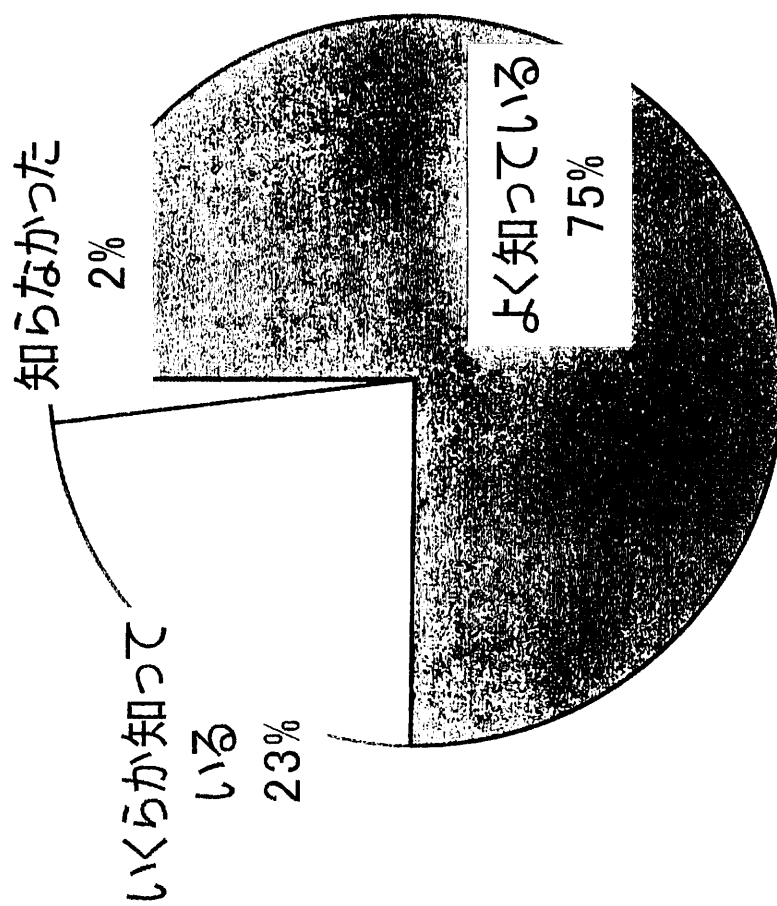


今後の糖尿病の地域連携パスへの「歯科」組 み込みの考慮について

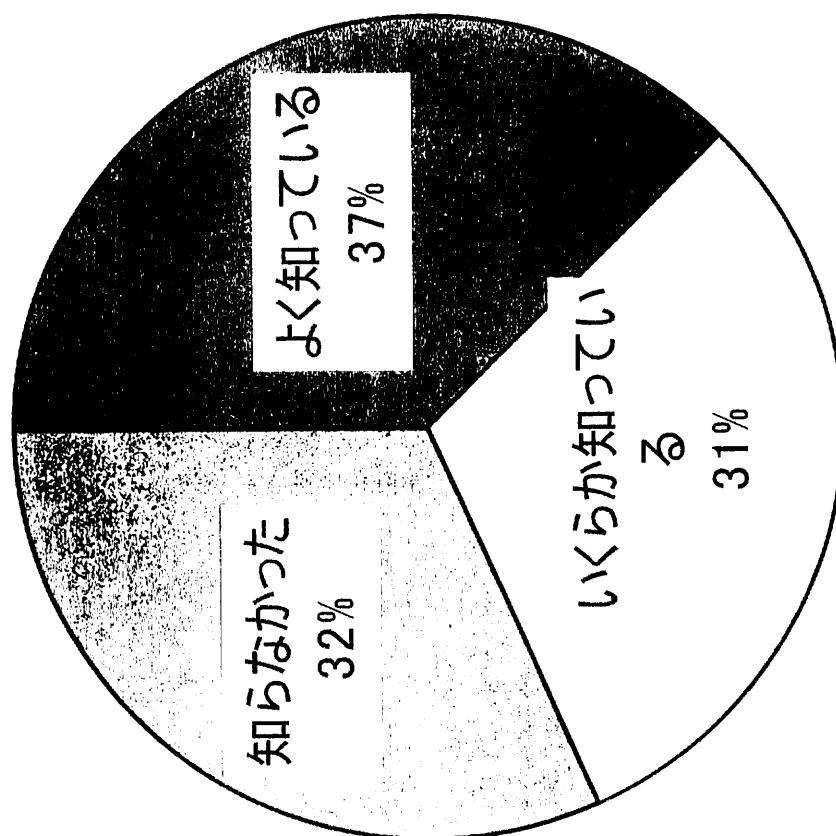
すでに連携済



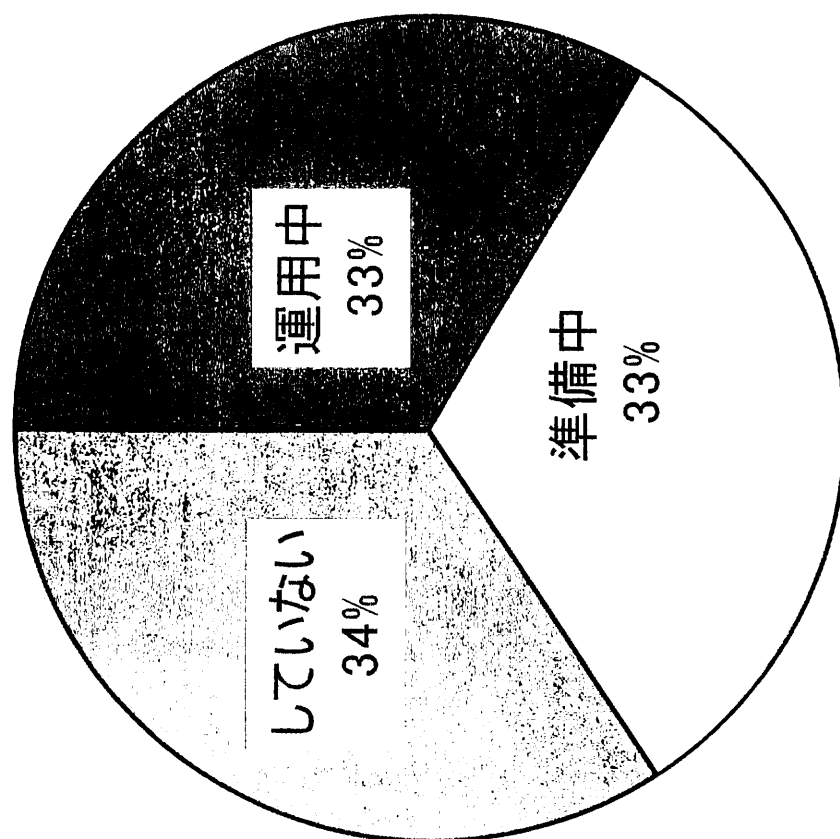
口腔清掃不良と寝たきり高齢者の誤嚥性肺炎の 関連性



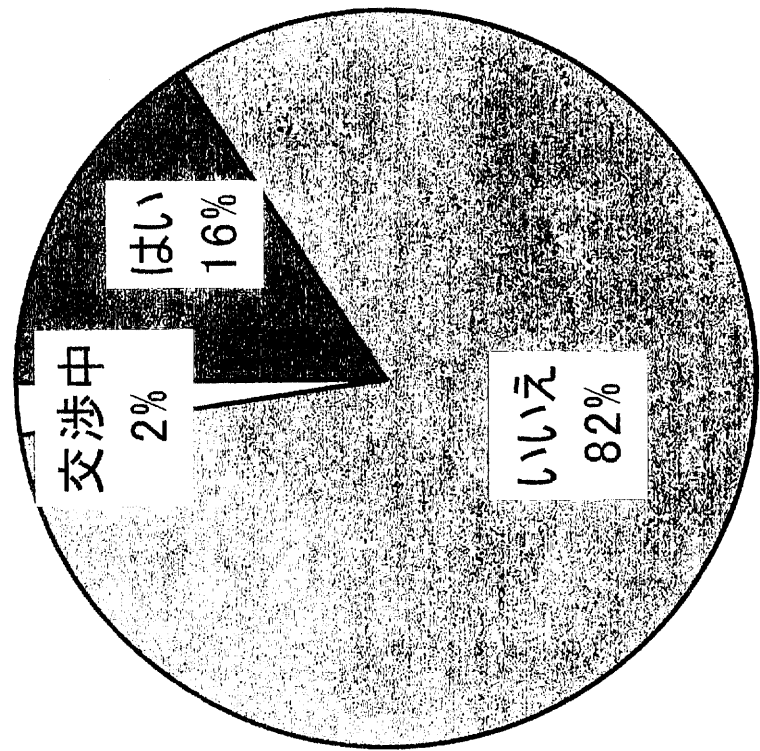
口腔清掃とインフルエンザの関連性



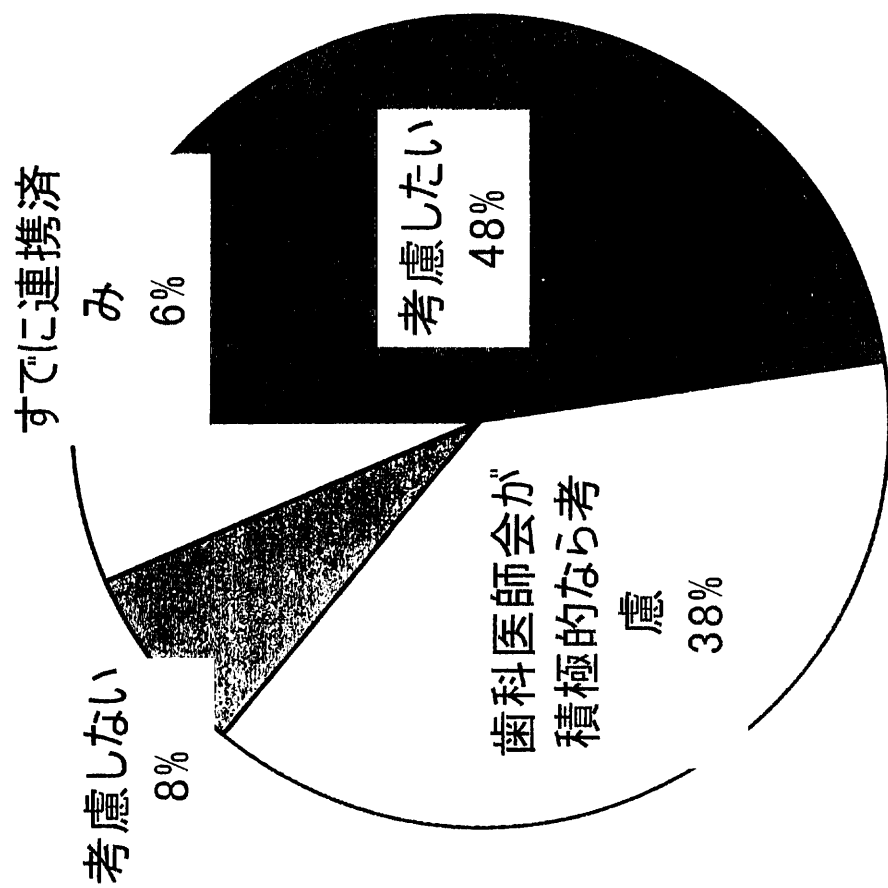
脳卒中地域連携クリティカルパスの運用状況



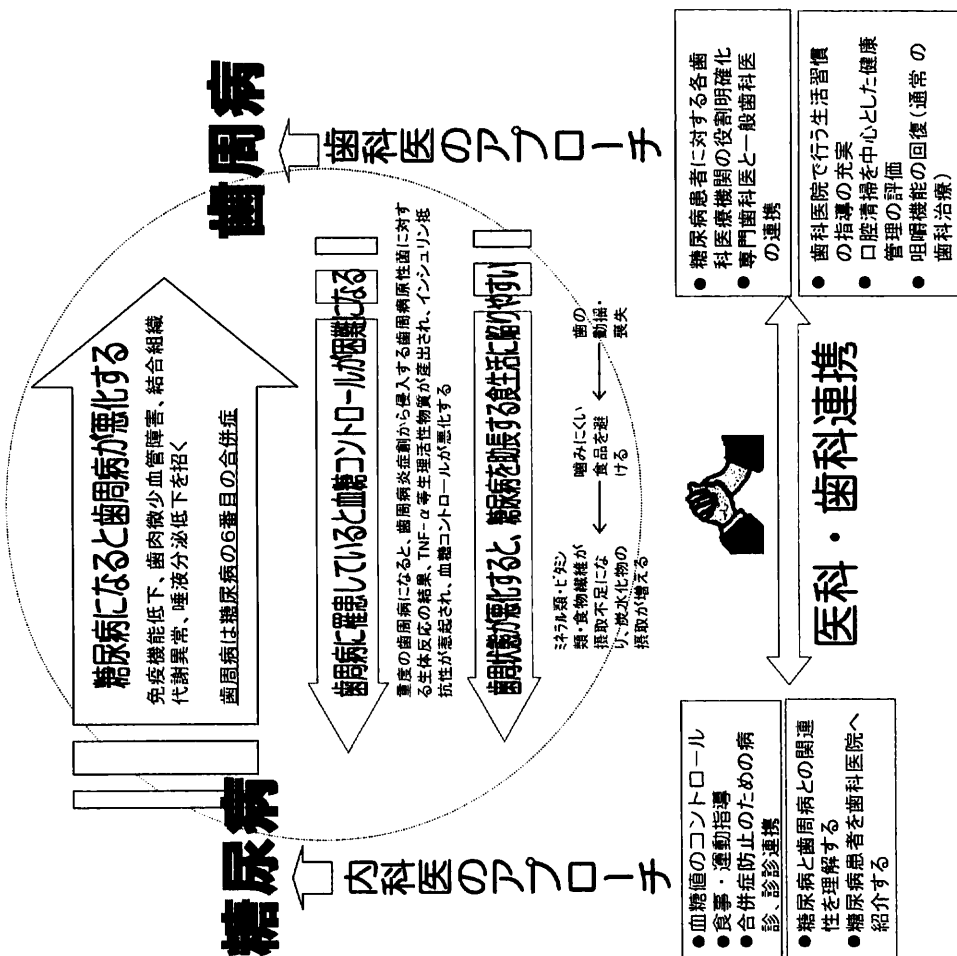
脳卒中地域連携クリティカルパスへの「歯科」の組 み込み状況



今後の脳卒中連携パスへの「歯科」の組み込み の考慮について



医科・歯科連携による 糖尿病と歯周病へのアプローチ



※標準的な歯診指導のあり方に関する検討会資料「歯診指導」における学習教材集より(厚生労働省)

参考資料
安藤ほか、糖尿病と歯の保有状況との関連 ～平成16年国民健康・栄養調査を用いた分析～
Journal of Epidemiol:19(1), p.202.
安藤ほか、栄養素の摂取と口腔状態の関連 ～平成16年国民健康・栄養調査を用いた分析～
Journal of Epidemiol:18(1), p.221.
糖尿病治療ガイド(日本糖尿病学会)

地域保健総合推進事業
「歯科・医科連携による歯周疾患アプローチに関する研究」資料

考察・まとめ

- 糖尿病と歯周病、口腔ケアと肺炎やインフルエンザとの関連性については、かなり広く認識されている
- しかしながら、現実では地域での医科と歯科の連携は、さほど進んでいない
- 連携推進には、保健所および歯科医療側からのアプローチが重要
- アンケート調査による教育効果は連携推進の成果と考える